

も声もかけてくれないで、路上で死んで行かなければならぬのです。そんな時にその人は必ず思うでしょう。"私は誰からも必要とされていないのだ、誰からも相手にされていないのだ"。そういう人たちの中へ、マザーテレサさんのグループが声をかけていくのです。"あなたたちは決して一人ではないのですよ。私たちがいますよ、さあ一緒に病院に帰りましょう。" "そうやって病院へ連れて帰り最後のいのちをみつめてあげるのです。私が病院を見学した時は、丁度昼ご飯の時に、世界中から集まった大勢のボランティアの人たちが食事の世話をしていました。"

える形でまた目には見えないう形で、人間は必ず私以外の人のおかげの中に生かされているのだなあ。更に言えば生命のないものから太陽の恵み大地の恵みの世界の中に生かされているのだというところを。マザーテレサさんは、仏教でいう人間はみんな"縁起の世界に生きていく"という道理を身にかけて実行した人だなあと思いました。

"私は誰からも相手にされていなくて、間違ったとが間違いであるとすれば、その逆の"私は誰の世話にもなっていない"。私一人でちゃんと生きている



(写真) 圓石正武さん

「と悪いこと間違いでないでしょうか？その間違いを犯している大將がブッシュさんではないのでしょうか？九・一一事件の直後世界中はこぞつてアメリカに、国連の意向も無視してわが道を突進しています。しかもイラク国民のアメリカに対する反発があまりにひどいので、アメリカの指揮権のもとでの、国連をはじめ世界の国々の協力を要請しています。ソ連の崩壊以後アメリカ一極構造は段々と強固となり、今では世界中がたばになつてかかつて武力ではアメリカには勝てません。

以前にも書きましたが、楠木正成が敗戦を覚悟で湊川へ出陣した時「非理法権天」の旗印をかかげて進んだそうです。非道は道理に勝てない、道理があつても法律には勝てない、法律があつても時の権力には勝てない、権力者であつても天の道理には勝てない。楠正成はこの権力者に足利尊氏をあてはめ、天道に順じた南朝方の勝利を夢見たのですが、私はこの権力者がブッシュさんに代表されるアメリカのネオコン(新保守主義者)アメリカ第一主義者に見えてくるのです。"イラクの秩序は半年で回復する"と豪語していたのに、肝心のイラク人の心をつかんでいないのですから、いまだに毎日のようにアメリカ兵が狙撃されて死んで行っています。ビン・ラディンさんも、フセインさんも未だに発見されません。このままでは第二のベトナム戦争になりかねない"と世界中が危惧しています。自己中心的なあさましい日暮しをしているこの私に、自分自身を客観的に見る信心の智慧の眼をいただいて、心のゆとりを持ってこそ、本当に自他ともに生きる世界が見えてくると思います。神さまを背中を負うて、ひとの非を

さばいて行く世界からは本当の平和はとてものぞめなうと思ひます。怒むことなき教を仏教となし、争うことなき教を仏教となし、誹ることなき教を仏教とする(『宝蔵経』)という聖訓があります。



上山田地区世話人として活躍されていた折出笹美さんですが、病気のため世話人をやめられることになりました。またご縁がありましたらよろしくお願ひします。尚、増員でしたので新世話人の紹介はありません。